新青森市史

通史編第一巻

原始・古代・中世

三内丸山遺跡（『新青森市史』通史編第1巻口絵より）

編集／青森市史編集委員会　発行／青森市　2011年3月31日発刊

「青森御町絵図」（『新青森市史』資料編3近世（1）付図より）

『新青森市史』通史編第一巻原始･古代･中世の概要

A5版　758ページ　付図「青森市遺跡分布図･一覧表」

編集方針　本巻は、すでに発刊されている『新青森市史』資料編1考古と資料編2古代･中世の成果を受けて著した通史で、旧石器時代から中世まで、すなわち藩政時代の「青森開港」の直前までという、長期にわたる時代を扱っています。

ご存知のように、縄文時代や中世後期を除くと、この地域に残る資料が極めて少なく、それのみで地域に根ざした歴史叙述を展開しようとするのにはおのずと限界があります。しかし、本巻ではそうした限界性を逆手に取って、むしろ全国的な視野に立つことで、青森市域の歴史を北方史、さらには日本史のなかに位置づけることを目指しました。そういった視点から、編目に「あおもり」という仮名表記を敢えて用いました。これは、現在の「青森市」の範囲に限定されない、より広い視野に立った歴史叙述をしようということを踏まえたものです。

本巻の内容と特色　本巻は、上に紹介したような編集方針にもとづきまして、第Ⅰ部「原始時代のあおもり」、第Ⅱ部「古代の外浜世界」、第Ⅲ部「躍動する中世の外浜」という3部構成としました。とくに文献資料が少ない古代・中世といった時代については、考古資料を積極的に活用して叙述しました。これは、これまでの近隣自治体史の通史編の叙述とは趣を異にする、『新青森市史』の特色といっていいでしょう。

発刊の意義　昭和49年（1974）に編さんが終了した『青森市史』は政治編、産業編といったテーマを軸とした編集方針であり、考古から現代まで続く青森市の「通史」は、今回が初めての試みといっていいでしょう。さらに、『青森市史』の「あとがき」には「市史編纂を終了するにあたり、心残りのことは青森市の古代編、考古編を編述しなかったことである。」という一節があります。本巻は、まさに『青森市史』でなしえなかった考古・古代といった時代を扱い叙述しています。

堤川と駒込川の合流地点付近
写真右手の方に堤氏の居城(古館)があったといわれています。

そういった意味で本巻は、第4巻現代まで続く「通史」編の第1巻目として、市民の方々にとってこれまで知らなかった、ふるさと「あおもり」の出発点を学ぶことができるでしょう。

■閲覧できる所　市民図書館・各市民センター・県立図書館
■販売している所　成田本店・よしのや本間・中世の館・歴史資料室
■販売価格　7,260円
■問合せ先　青森市民図書館歴史資料室　℡017-732-5271